アメリカン・スパニッシュの特性

花村哲夫

中南米で話されるスペイン語（American Spanish）と、スペイン本國で話される標準スペイン語（Castilian Spanish; Standard Spanish）との間では、文学語に於ては、殆んど差異が認められないけれ共、Sp. の標準的口語は、多くの點に於て Am. Sp. の口語と大いに異つている。其の上に標準 Sp. はスペイン本國に於てすら教養ある人達にのみ限られており、本國に於て一般的で粗野であると考へられている少數の表現は、中南米に於ける上流社会に於て屢々認められているという場合がある。けれ共、本國のどこかでも中南米に於て用いられている用法が發見される。兎に角、口語と文語との間隙が中南米に於て著しいことは事實である。

Am. Sp. の單語は外的要素に依り豊富にされ又現在豊富にされたつゝあると同時に、內的要素からも同様に豊富にされつゝある。Am. Sp. の特性を決定するに際して、顯著な外的要素は無數の土着の言葉を借用していることであり、此等の大部分はスペイン語の型に合うやうに變更され、土着語が話され又依然として話されている處の地勢、植物區系、動物區系、食物、飲料水、着物、器具、住居及び地理学上の地帶に典型的な習性に結びついている。Pedro Henriquez Ureña のしたインデイアン言語に依つて影響された五つの主なる方言の中で、最も最初で現在殆んど活動してない源は Carribbean 即ち Indo-Antillean 語である。アメリカの發見及び其の植民地は Arawak (=one of a numerous and widely scattered Indian language stock of northern and north-eastern South America, and the West Indies.—ACD.) 言語及び彼等の强力なる征服者である Caribs 語から多くの言葉を借用している。そして其の支脈であるアンテイル列島及びベネスエラ海岸及び平野及びコロン

ビヤの北部に擴がつている。この地域の現今の文学に於て Arawak から aracabuco (森) というような單語があり Caribs 語からベネスエラに於て agaje (籠の一種) という單語があり arepa (トウモロコシで出來たパンケーキ) とapamate(高い枝の分れた木の一種)はベネスエラの平野の Cumanagota から來ており、cachicamo (アルマジロ、南米に住む哺乳動物) はベネスエラ及びコロンビヤの Tamanaca より dure (木の幹から作つた椅子) はベネスエラ、ブラジル及びアンテイル列島の Taíno から來ている。十六世紀から、此等の言葉の用法は他の國々に擴がり、そして其等の言葉の意味は變更された。例えば Bahama 群島の Yucayo からの barbacoa (もとの意味は "構造" であるが、色々な目的のために使われるが) は、ペルー、ボリビヤ、エクアドル、コロンビヤ、中央アメリカに於て用いられ、"燒肉" という擴充された意味に於ては、中央アメリカ、クーバ、メキシコ及びベネスエラに於て用いられる。

1519年に始まつた Cortés のメキシコ征服と共に、そしてメキシコ及び米國の南部及び南西部をスペイン人が探險した爲、スペイン語は Nahuatl 語 (=any of a subgroup of Uto-Azteca languages of central Mexico, including Aztec—ACD.) の單語を吸收し始めた。そしてその征服は、インデイアンの文化を壓迫しながら今日に到る迄、借用し續けた。この地方は又中米を含む。そこでは Maya (=the historical and modern language of the Mayas, of Mayan stock.—ACD.) 及び Chapaneca が最も主要なる言語であつた。たとえば huaque (干し蕃椒の一種)、jocote (桃の一種) xocotamal (肉のないメキシコ料理の一種) は Nahuatl 語からであり、guajiro (クーバの百姓) は maya の方言である Yucateco から來ている。nimbuera (陶器の浴槽) は=カラガ及びコスタ、リカに於ける Chapaneca より來ている。

Francisco Pizarro (1475—1541) がペルーを征服 (1527—33) し後に Quesada がコロンビヤを征服してから、二つの文法的に、そして語辭的に同じインデイアンの言語が征服者の言語即ち Aimará 及び Quechua (=the language spoken originally by the Indians of Cuzco, Peru, spread

widely by the conquests of the Incas.—ACD.）の言語に侵入し始めた。これらはベネスエラのアンデス地方、コロンビヤの西海岸及び其の奥地、エクアドル、ペルー、ボリビヤの北部に存在している。Quechua 及び Aimará からの言葉はペルー、エクアドル、ボリビヤの文学に普通である。何故ならインデイアンの人々が最も大きい要素であるから。これよりそれ程重要でないインデイアンの言語はコロンビヤに於ては Chibcha（=an extinct tribe of civilized American Indians, formerly living in a high plateau of Bogotá, Colombia.—ACD. この種族が使つた言語）及びエクアドルの Esmeraldas に於ける Cayapa である。Quechua からの借用語は、antara（葦の笛）chacchar（コカの樹をかむ）lloque（柔軟な棒）minga（集團の人々のする奉仕的な仕事）、Aimará から pongo（インデイアンの召使い）apir（鑛山に於ける運搬人）coco（コヽナツトの樹）chipa（革紐の網目）がある。

1540年に Pedro de Valdivia がチリーに侵入し、物凄いアラウカノ人（Araucanian=a linguistic stock of Chile and northern Argentina—ACD.）との戰に於て Sp. はMapuche に依つて大いに影響を受けた。アラウカノ人は今は50万から5万5千位に減つているが、チリーの文学に豊富な單語を加えた。1536の昔にスペインの探險者が Río de la Plata に入つた時に、其に關聯した言語 Tupí（=a member of a tribe, or of a widespread group of tribes, of South American Indians, forming a distinct linguistic stock, living along the lower Amazon, along the Brazilian coast, and through Brazil into Paraguay—ACD. この種族の話す言語）及び Guaraní（=an importantcentral South American tribe of Tupian family and affiliation.—ACD. この種族の話す言語）は Am. Sp. に根跡を殘した。この方言の地域はアルゼンチイン、ウルガイ、パラガイ、及びボリヤビヤの南西部の一部を含んでいる。アルゼンチン及びウルガイの作家達は Tupí と Guaraní の借用語、例えば gurí（インデイアンの子供）ombú（パンパに生える木）aguará（狐の一種）mandioca（その根から澱粉、タピオカ等を產する）。

第二番目の借用語の外的要系の源は、アフリカの黒人の言語であつて、經濟的開發が始まつて、黒人達が最初勞働に使われた時に、新大陸に移植されクーバに於ける Am. Sp. に或る印象を植えつけた。程度の差は低いがアンテイル列島、中米の熱帶の地域に於ても植えつけた。コロンビヤの數地方、ベネスエラ、エクアドルに於ては最も僅少の印象を植えつけた。アフリカ語は通例、音樂、踊り、迷信及び儀式に關した言葉であり、そうした言葉はアフリカを主題とした詩や散文に於て用いられている。例えばコスタ、リカとパナマに於て angú(バナナを原料としたドロドロのスープ)、bachata(踊り)、コロンビヤ及びプエルト、リコに於て baquiné (葬式)、エクアドル及びキューバに於ては、bongó (太鼓) 等。

アンテイル列島に於ける奴隷賣買の日から Am. Sp. は英語を借用している。然し借用の割合は19世紀に於て Sp. に對する Fr. の影響に等しい程度に20世紀に於て增加した。英語の刺戟は1898年に始まり、其の時は米國はカリビヤ諸國との關係を强化し、そしてパナマ運河の建設と共に、其の範圍は廣まつた。政治的のつながり、映畵、ラジオ、近代交通機關の發達は、ラテン、アメリカ諸國を英語と密接に結びつけ、そして文学に於て、種々の表現が現われた。例えば !aló ! (hello!) chincibí (ginger beer) norsa (nurse) luquear (look at) olrait (all right) tofete (tough) 等。

Am. Sp. は標準 Sp. から借用している程 Fr. から借用してない。何故なら餘り双方の間に接觸がなかつたから。或る方言は Haiti の Fr. から取られている。例えば compère からの compé (友達)。當然のことながら Fr. の借用語の大部分は、態度とか着物に關したものが多い。brutanté (人の不體裁なこと) crupié (ばくち打ちの助手) burato (絹の織物) cotón (ジヤケツ)、ラ、プラタ河地域 (アルゼンチン、ウルガイ、パラガイ) に於ては、ポルトガル語からの種々の借用語が見出される。そして、それはブラジルを經て Am. Sp. に入つて來た。例えば barullo (混亂) conchabar (賃金を得る爲に働く) cismar (考える) tamango (粗野な皮の靴) 等がある。

アルゼンチンに於ては多くのイタリヤ人がいるからして、澤山のイタリヤ

語がある。例えば bachicha (イタリヤの國籍の人) escorzonera (革の一種) pasarela (小さい橋又は道) 等。

Am. Sp. の内的要素の一つは古語があるということである。この事は植民地時代に新大陸に Sp. が移された多くの地域が標準語を話すスペイン人との接觸を斷たれ、從て彼等の Old Sp. の形態に於て單語を保存していることである。中南米特にサルバドール、コスタ、リカ、アルゼンテイン、ニューメキシコ、に於て現在使われている古語のあるものは、mesmo (mismo) pos (pues) onde (donde) dende (desde) ende (desde) escuro (obscuro) semos (semos) vido (vió) ansina (así) ansí (así) 等である。

Am. Sp. のこれと反對の特質は、著者、發明家や他の個人達の創造にかゝる語であり、一般的な coinage (新造語) である。例えば regusto (強い快樂) gluglutear (ゴロゴロ喉をさせる) güiriri (グウイリリという音を出す小さいアヒル)。この二つの型に於ては擬音と繰返しが普通である。

Am. Sp. に於ける造語法は標準 Sp. と同じ方法に依るけれ共、言語が占める廣範圍の地域の爲に、新大陸に於て、特に生產的要素であるように思はれる。arrancada (收穫をする動作) boleadoras (輪なわ) bajanza (マグダレナ河の魚が下流へ戻つて來る時期) naricear (動物の鼻の中に繩を通す) petatearse (死ぬ) perequero (騷動を起す人) patagual (チリーで產する"白い木" pataguas を植えること) 等は非常に屢々である。動詞と名詞から成立つている複合詞、例えば mata-buro (ブランデー) matasanos (醫者) mirasol (鷲に似た鳥)、名詞と動詞との結合では、pespuntear (歩く) があり、代名詞と動詞では、medán (隣人の要請に應じて、隣人の助けにやつて來る一群の人々)、二つの名詞の結合では、milpesos、句を結びつけた語 porsiacaso (鞍袋)、Quechua と Sp. とが一緒になつた語には、manavali (價値がない) 及び perduncha (小さな免罪符)、或る物が輸入される所の場所の名前から作つた新しい單語には、antimacasar (椅子の背からマカサル油を、つかないようにするのが元來の意味で椅子の背覆) pisco (Peru の Pisco から來た、ブランデー) araugaria (チリーの一地方なる Arauco から來た松の

学名)、choapino (チリーに於けるアラウカノ民族に依つて織られる小さな毛せん) bugambilia (フランスの旅行者の Bugainville に因んで名付けられた美しい花の咲く葡萄の木) colis (Connecticut の Collins Co. に依つて作られた Costa Rica の栽培に用いられるナイフ)

次に Am. Sp. の性質に於て最も興味深い内的要素は其の意味上の變化である。生きた言語の單語は、それが存在している環境が變りつゝあるために、絶えず意味上の變化をしている。これらの變化は地方的意味と、より一層の保守的用法の標準と比較すればよくわかる。Sp. が話されている新大陸で種々の使用を果している Am. Sp. の orejón と orejona の形容詞を例にとつてみれば、二つの意味の變化の過程が見られる(1)人間に自然及び客觀的世界に於て或る名前や特性を適用すること、(2)意味の擴張や具體的から一般的に變ること。その言葉は最初コロンビヤ平原の牧夫に適用された。そして彼の大きな拍車即ち orejonas のために、このように特徴づけられた。この單語はそれから荒い平原の住民の一般的性質に聯想され、そして終に誰でも荒々しい人間に用いられるようになつた。チリーに於て仕事に對する一般的の言葉である pega は恐らく彼等にとつて、仕事を意味する處のソジューム硝酸鹽の鑛脈を鑛夫が、たゝくという特定の意味から發達した。屢々物質を示す單語は、其から作られる物體に後程、適用される。これは一種の意味の限定である。この種の例は種々の地域に於ける帽子の名前に於てみられる。即ち el pita (元來は fiber, or thread made from the fiber, of the agave or maguey)—yarey (元は a species of "guano" palm tree)、iraca (palm tree used for weaving hats)。意味の比喩的擴張は chinchorro(小さな地引き網)の用法に於て知られる等。(コロンビヤに於ては非常に大きい魚網、そして又コロンビヤ及びベネスエラに於ては厚い草の網の目のハンモツク)。この言葉は多くの貧乏な家族が網の目のように、ごつちやに住んでいる大きな共同住宅の意味に、コスタ、リカに於て用いられるようになつた。pedir cacao という語句は轉義的な意味を得た。グアテマラのインデイアンの中での文字通りの意味は「金子を請求する」である。因に cacao は交換の手段であるから。コスタ、リカに於ては其は

「哀れみを求める、即ち降参する」意味に用いられる。

擬人化は植物區系及び動物區系及び行動の目的物に最も普通に見られる。其の例として、boyero（畜牛が草を喰む時に、一緒について歩くアルゼンテイン及びウルガイの鳥)、reina de la noche（夜に芳香を放つコスタ、リカのか愛らしい花)、potrillo（馴れてない小馬と同じ位に氣まぐれな丸木舟）等。

最後に文章論の立場からほんの二つ三つ Sp. Am. にのみ用いられる用法を述べてみる。尤も、この問題については、改めて詳しく述べる積りである。

Sp. は英語に較べて Subjunctive を用いる程度が比較にならぬ程多く、Past Subjunctive には語尾が—se 及び ra に終る二つの形式があることは文法書の説く通りである。—se の形式は元來が subjunctive であり、—raの形式は元來は直説法であり時々元來の意味に用いられる。Sp. Am. に於ては—ra 形式の方が大多數の人々に依て用いられる。Sp. Am. の作家の中には、專らこの形式をのみ使つている者もある。從て或る南米の作家達の中に Past Subjunctive の—ra 形式を用いて Pluperfect indicative としての元來の意味に使つているものさえある。

El hombre que *traicionara*——Vázquez.

Unos dias después de aquel en que Agustin *cantara* su primera misa, estaba yo al balcòn del comedor.——Alfau.

Subjunctive のついでに、これは Sp. Am. にのみと限定することは出來ないが Sp. Am. に於て、口語的 Sp. に於ては時々 Indicative が用いられていることは注目してよい。

Siento que *está* enfermo.

Lástima que yo no *tengo* el informe.——Prof. Moreno. 尤も昔は Emotional verb で決して Asseverative verbでない動詞の後にも Indicative を使つたものであるが、（例えば Por Dios, mucho siento / Que no *son* monstruos—Lope de Vega)。大體現在では、文語に於ては、この用法は消失しているが、口語に於ては決して消滅してない。中南米に於て Archaism が、かなり使われていることを想えば、この Subjunctive を使うところに、

Indicative を用いる用法が中南米にあることは驚くことではない。

副詞の語法に於て Standard Sp. に於て感嘆文を作る時には qué＋形容詞又は副詞の構文に依る。¡Qué muchacha tan bonita! ¡Qué flor tan hermosa! この語法の他に昔は cómo＋動詞＋形容詞又は副詞の構文があつた。例へば ¡Cómo bella es! 又は ¡Cómo es bella! "Muy graciosa es la doncella; / *Cómo* es bella y hermosa! ——Gil Vicente. この構文はスペインに於けるよりも中南米に於てより廣範圍に或る地域の口語に於て殘存している。前置詞に就ては云へば en が a に依て中南米に於ては代用されているということである。Entró en la casa. と Standard Sp. では云う所を Sp. Am. では Entró a la casa という。この用法は現代の Sp. と異つている所を見ると Americanism と考えられるが事實は Old Sp. の用法である。

¿Qué has entrado *a* su aposento? —Lope de Vega. この古い形が中南米に於て强く殘つてるので、entrar に似た internarse, penetrar, ingresar 等々の動詞にも en に代つて用いられる。間投詞に就て Cómo no というのがある。これは專ら Sp. Am. に於て用いられるので Americanism と考へられているが事實は古い Sp. で、ある限られた範圍の人々に依て用いられていたので (¿me permiten ustedes ir a la misa? Y le dijo ella que *cómo* no. ——Aurelio Espinosa) 現今のスペインでは知られていない。この表現法は疑問形の ¿cómo no? 又は感嘆の ¡cómo no! が多くの場合、肯定となつて sí 又は ciertamente＝yes, 又は certainly として使はれるに至つた。何れにしても Sp. Am. に於て Archaism が何れの點に於ても、多く殘つていることは、Sp. Am. の大きな特徵といえる。

以上を約言すれば Am. Sp. の單語は Standard Sp. より中南米に於ける、より廣い資源と機会に惠まれ Standard Sp. に對し新しい單語と用法を追加しつゝあり、アルゼンチンが其の主役を果しつゝあることは經濟的、政治的に指導者の地位を占めていることからみて當然のことである。

尙 Americanism の中で、最も重要な用法は Vos の用法、即ち Voseo であつて Vos は Old Sp. に於ける二人稱單數形であり (mas por mandarlo

vos, padre, yo lo hare.——Romera Navarro.

Standard Sp. に於ては使われぬが、依然として Sp. Am. に於て壓倒的に用いられている。(Voz también vas a morir.——Vázquez. Yo soy……un serrano como vos.——Vásquez.)

この用法に就ては *Kany 教授の研究があるので、それを紹介かたがた土臺にして Voseo の用法を概説して置く。Am. Sp. に於ては親しい形の二人稱複數形の vosotros は時たま文学的用法に於て、又は空想的なスペイン人に依て用いられる以外は中南米に於ては、消滅している。これは三人稱複數形動詞を使う ustedes に依つて取つて代られている。アンダルシヤ及び他の處では二人稱動詞と共に使われた ustedes を聞くことが出來る。(ustedes tenéis).

稀な文学的な vosotros＋第二人稱複數形動詞と会話的な ustedes＋三人稱複數動詞の二つの形は時々餘り教養のない、又文法的智識のない人々に依て混亂に導かれている。かうした連中は正しい Sp. の二人稱複數、即ち vosotros＋二人稱複數動詞を社会的に洗練された形と考へて使うように努めているが、これは大した益もないことである。やがて彼等は二つの形を混ぜて了うという誤を犯して了う。何故なら Standard Sp. の vosotros は使わないから錆ついて了つたから。こうした文法的な不一致は半教養人の知つたか振りを、面白く、おかしく示す爲に或る作家に依て取りあげられている。

Ya sabíamos que *ustedes* no *faltaríais* ····*Estáis* en *vuestsa* casa. En seguida *les* voy a dar cuenta del secreto. *Ustedes* no *sabían* a qué *veníais*, ¿ verdad ?——Patoruzú.

Tuteo は通例二人稱單數動詞形と共に用いた tú の正しい用法で其に代名詞の te, ti 及び所有形容詞の tu 及び tuyo を伴つたものであるが、voseo は tú に代つて親しい單數の vos の用法を意味し、二人稱單數及び古語の二人稱複數動詞形を使い、其に代名詞 te, vos 及び所有形容詞の tu 及び tuyo を伴つている。Vosear 即ち "vos" で呼ぶことは "tu" で呼ぶ所謂 tutear と一般に對抗している。其にもかゝわらず動詞 tutear は屢々 vos の用法に言及しているのが見出される。何故なら双方とも親しい呼び掛けを示すからである。

Hasta aura que *has venido vos*——Güiraldes.

我々は vosear を意味する爲に用いられた tutear を發見するのみならず vos に言及して言いられた tú を發見出來る。斯くして tú と vos とを完全に同一視して "hablarse de *tú* y de *vos*" というような語句も出來た。("——Es linda……pero no tan linda como *vos*. Era la primera…… vez que Lucio se atrevía a *tutearla*……Aquel *tú* que por primera vez volvia a resonar en sus oidos……."——Viana.

Vosear は時々アルゼンチンに於ては、ふざけて chechear として言及されている。何故なら Vocative particle の che は屢々間投詞の hombre の樣に、話しかけられた人の注意を喚起しつゝ Vocative の vos 又は tú の力を持つた二人稱動詞を伴う。ついでながら che は American word used in Argentine as a familiar form of address と辭書にある。che の語源は大いに論議されたが恐らく古代 Sp. の ce から來ているものである。此の意味に於ける che の用法は主として アルゼンチン と關係しているから（ボリビヤに於ても發見されるが）他國の人々の文学に於てアルゼンチンの人物を示すための取つて置きの手段となつた。チリーに於ては che は アルゼンチン人及びボリビヤ人にあてはめられた品位を落すような形容辭として名詞化されている。然し voseo は嚴密にアルゼンチンの慣習のみではなく中南米の各國にも用いられるが、アルゼンテイン及びウルガイに於て一層強い足場を得ているのである。Voseo の地理的流布は Henriquez Ureña に依ると中南米の三分の二を含んでいる。Voseo は一般にアルゼンテイン、ウルガイ、パラガ人の大部分、グアテマラ、エル・サルバドール、オンヅウラス、ニカラガ、コスタリカの大部分を占める中南米諸國及びメキシコの Chiapas 及び Tobasco 兩地方である。其はチリー、南部ペルー、北部ペルー、ボリビヤ、エクアドルに於ては tú と衝突しつゝ、コロンビヤ、ベネスエラ、パナマの內部及びクーバの東方の一部分に於て存在している。これに反し tú はメキシコ、クーバ、ペルー、ボリビヤ等の各地、北部コロンビヤ、ベネスエラ、西部エクアドル、パナマの大部分及びサント、ドミンゴ及びプエルト、リコに一般に用いられてい

る。

次に voseo のいろいろな種類及び其の分布を述べるに先立つて、二人稱代名詞及び其の用法の歴史的發達を簡單に述べる。

vos は十六世紀初期迄、殘存していた複數形であつた。間もなく otros が vos 及び vos の双方に加えられた。そして合併された形は明確に複數で容易に nos 及び vos から區別が出來、ずつと昔から常に二人複數動詞が伴つているけれ共、尊敬の單數動詞として用いられて來た。Poema del Cid (1140) に於ては vos は王様と貴族、夫と妻、貴族と貴族との間の尊敬的な呼びかけの形式として用いられている。(vos tomades, tomedes, veedes, sodes, seredes, etc.) 一方 tú は下級の者に呼びかけるのに用いられている。例えば Cid が家來に、ムーアの Bucár 王に、又一般に神に呼びかける時に (tú callas, dizes, eres, etc.) 然しこの初期に於ても tú の單數及び vos の複數形は時々同じ人に呼びかけるのに使われた。例へば王は最初に tú で Muño Gustioz に話掛け、其から複數の命令形を使つている。(dizidle ; saludádmelos, etc.)。十五世紀に於て、この vos 及び tú の置換えは、もつと屢々となり二人稱複數動詞の d が脱落しつゝあつた。(vayaes<vayades, soes<sodes) そして屢々二人稱の變化に於て隣接する e's は融合して irès<irees<iredes ; debés<debees<debedes となる。恐らく debés のような形式は類推的な形式 sepás<sepaes<sepades, sos<soes<sodes, partís<parties<partides を生ぜしめた。これに反して ae と oe のグループは急速に ai と oi (andais, sois) と二重母音化され、そしてこれらの二重母音は ee (avees>aveis ; debees>debeis) から ei の發達を助長した。十五世紀の中頃までに、總てのこれらの形式は混淆して用いられ、多くの現在の Am. Sp. の voseo という形式が、この混同から生じた。十五世紀には呼び掛けの丁寧な形は三人稱單數動詞を伴い vuestra merced となり、17世紀には usted となつた。16世紀迄に最も廣く用いられた形は vos tomáis, tomaréis, toméis, tomábades, tomariades, tomastes, etc. で vos と tú の交換は引續き、vos は徐々に其の尊敬する氣持を失つた。16世紀の $\frac{2}{3}$ 頃に vos の用法は侮蔑と迄はいかないま

でも、親しい氣持又は話者の側の優越せる位置を含蓄していた。17世紀の間に vos は事實上、親しい話掛けには tu に、丁寧な話し掛けには usted に依て代つた。然し vos は今日迄 Am. Sp. に強く殘存している。voseo は文法学者に依て正しい二人稱單數動詞を使わせ、二人稱複數動詞を使わせないようにさせたり voseo はひどい野蠻な用法だとか、恐ろしい voseo たとかの批難にもかゝわず強く根を張つている。

(i) The River Plate 地方

アルゼンチン、ウルガイ、パラガイを含む地方を The River Plate Region と謂うが、この地方に於て使われる voseo の直接法現在形を Castilian Sp. の變化と對照してみれば下記の通りである。

ARGENTINE	CASTILIAN
yo tomo	yo tomo
vos tomas	tú tomas
él toma	él toma
nosotros tomamos	nostros tomamos
ustedes toman	vosotros tomáis
ellos toman	ellos toman

二つの形は同じであるが二人稱單數及び複數のみが違ふのであり、二人稱複數の親しい形は ustedes と三人稱複數動詞であるから voseo を取扱う際には、以下、二人稱單數形のみを擧げることにする。

PRESENT　INDICATIVE

vos tomás	tú tomas
vos comés	tú comes
vos vivís	tú vives

PRESENT　SUBJUNCTIVE

vos tomés	tú tomes
vos comás	tú comas
vos vivás	tú vivas

PRETERIT	INDICATIVE
vos tomaste (tomastes)	tú tomaste
vos comiste (comistes)	tú comiste
vos viviste (vivistes)	tú viviste

IMPERATIVE

tomá	toma
comé	come
viví	vive

他のテンスに於ての動詞形は二人稱單數形であるが、其等の語尾のあるものはArchaicな現在形語尾に一部は似ている。(—ás <—áis, —és <—éis, etc.)

從て、Imperfect Indicative : vos tomabas, comías, vivías, etc.

Future Indicative : vos tomarás, comerás, vivirás, etc.

Imperfect Subjunctive : vos tomaras, comieras, vivieras, etc.

River Plate 地方に於ては、voseo は粗野な庶民的な話し振りの特徴であるばかりでなく、中流及び上流階級に迄、擴がつている。voseo がこの樣に廣がつているのは、中南米のこの地方における顯著な特徴である。同等の者の間に於ける親しい呼びかけに用いられたり、又目上の者から下の者に對しても用いられる。後者の場合に於ては兩者の間に距りを作ることになるが同時に愛情おも含蓄することになる。兩親の子供に對して、そしてブエノス、アイレスに於て子供達から兩親に對して、然し地方に於て又粗野な話し方に於ては、子供達は usted を以て兩親に話し掛ける。兩親は又彼等の子供達に話しかける時には vos と usted を併用する。若い子供達の場合に於ては愛情を表はす爲に、怒りや或は非難を表はす爲に usted が用いられている。vos は尙兄弟、親類の間に於て用いられている。学校で教師は tú を以て彼等の生徒に話しかける。生徒達は教室で、お互に tù を用いる。然し彼等が運動場に出るや否や、vosを使う。こゝに奇妙なことには、vos を使う人達の或る者は、親しい手紙の中でも、この形を書くことを避けて、tù に切り換えている。

アルゼンチン文学に於ては、vos は地方的習慣を描寫する地方的小說及び

劇に於て特別な雰圍氣を作るために用いられる。これに反し tú 形はアルゼンテイン生活を理想化する傾向のある處の飜譯及び小說に現はれている。この樣にして現實を非常に不確實に再現している。ブエノスアイレスの話し言葉に於ける習慣的 vos (vos tomás) と時々用いられる tú (tú tomas) は屢々 tú tomás と vos tomas と混同することになる。恐らくこれは voseo に伴う動詞形を Castilian Sp. に近げようとする merioration の傾向である。

vosear の用例：¡ *Vos* no *tenés* nada !——Lynch.

A *vos te* pasa alguna cosa……——Ibid.

¿ Qué *tenés vos*? ——Ibid.

¿ Ande lo *has* visto ?——Ibid.

上記の最後の例のように haber のアルゼンテインに於ける Present Indicative の voseo の形は habés よりも寧ろ has である。

(ii) チ　リ　ー

一世紀前アルゼンチンで用いられている形と異つた voseo が同じようにチリーで擴まつた。然しながら文法家達の努力や学校での嚴重な教育のお蔭で voseo は教養のある人達の間では殆んど消失した。そして彼等は tú や usted を殆んど無頓着に使う。然し voseo は民衆の粗野な話し言葉に於て、依然として、その位置を保つている。

PRESENT　INDICATIVE

Argentine	Chilean
vos tomás	vos tomái (s)
vos comés	vos comís
vos vivís	vos vivís

PRESENT　SUBJUNCTIVE

vos tomés	vos tomís
vos comás	vos comái (s)
vos vivás	vos viváí (s)

FUTURE INDICATIVE

vos tomarás	vos tomarís
vos comerás	vos comerís
vos vivirás	vos vivirís

IMPERATIVE

tomá	toma (*tomá)
comé	come (*comé)
viví	vive (*viví)

IMPERFECT INDICATIVE

vos tomabas	vos tomábai (s)
vos comías	vos comíai (s)

*はアルゼンチンに接する地域に於て用いられる。

IMPERFECT SUBJUNCTIVE

vos tomaras	vos tomárai (s)
vos comieras	vos comiérai (s)

チリーに於ける最後の —s は單なる氣息音であるが全然發音されないことは注意を要する。—ái(s) の語尾に於ては殆んど發音されない。從てこの樣な形は通例 —ai 又は ay である。例えば estai, estay, tomai, tomay 等。—is 語尾に於ては然しながら强勢の high front vowel í の爲に氣息音は明かに聞える。そして左樣な形は通例 s を以て書かれ、それ程屢々でないが h を以て書かれる。即ち venís 又は veníh; lleguís 又は lleguih である。

上に掲げた變化表より(1)直接法現在 —ar 動詞に於ける二人稱複數語尾及び—er 及び —ir 動詞に於ける Subjunctive Present に於ける二人稱複數語尾は、古代の—ás 形よりも寧ろ —ái(s) 形である。(2)—er 動詞の直接法現在に於ける—és 語尾と —ar 動詞の假定法現在に於ける —és は—ir 動詞の—ís語尾との類推に依て—ís となる。(3)總ての動詞の未來に終つている二人稱の複數形は —ás よりも寧ろ —ís である。(4)命令形は通例正しい二人稱單數形であるが複數形も亦用いられる。特に田舍の地方及びアルゼンテインの國境に於て用

いられる。

チリーに於ける voseo 形の行はれる地方はサンホアン、サン、ライス、メンドサ地方である。勿論時々上に述べた其等以外にチリーに於て他の形式を聞く。例えばもつと一般的な amaí(s)に對して amá(s), soi(s) に對して so(s) 等で、恐らくアルゼンチンの影響であらう。

voseo の用例を二つ三つ擧げれば

No lo *tomís* a mal ni *pongai* esa cara.——Alberto Romero.

Debís correr……*vos sos* niño……*cómete* todos los chupes que *poday* y *veris* qué gloria……pa que *vos* no *pongay* esa cara……¡*mira*! *te* voy a contar.——Sepúlveda.

¡Qué decíh, niña?……——? Cuánto *valrí* (=valdrás), pelotita dioro?——Manuel Guzmán Maturana.

(iii) ペ　ル　ー

voseo は南部ペルー特にアレキパに於て一般の話し言葉と同様に粗野な話し言葉に於ても用いられる。リマとクスコの中央部に於ては vos は完全に十八世紀の終り頃迄に tú に依て置き換えられた。ペルーに於ける voseoの用法に就ては未だ調査不充分にて斷定的なことは云い得ない。

(iv) ボ　リ　ビ　ヤ

教養のある者は一般に標準の tú 形式を用いる (tú hablas, tú vienes)、大衆の且、國語體の都会の話し言葉に於ては、命令形及び ser の直接法現在を除いて vos+單數動詞 (vos hablas, vos vienes) を使う。田舍の地域、特にサンタ、クルス、デ、ラ、テイエラ及びチリー、アルゼンチンに境を接している部分に於ては、複數動詞と共に vos が使われている 。(vos habláis 又は hablás vos venís, vos sabés, etc.)

(v) エ　ク　ア　ド　ル

voseo に關する限りエクアドルは二つの地域に分たれる。キトーを含んだ北部及び中央部分と、グアヤキルを含んだ海岸地域とであり、前者に於ては、voseo は田舍及び都会の日常の話し言葉に於て普通である。特に教養のある人

々の間に於てすら左様である。後者の場合に於ては tú の用法は高地に於てより、ずつと屢々使われる。voseo の主たる形は、チリーに於て用いられている形である。即ち—ar 動詞に對する語尾は—áis そして—er 及び—ir 動詞の双方に對しての語尾は—ís である。(querís, habís, decís, etc.) 命令形は時々單數單數 (toma) であり時々複數の tomá であり、未來形は一般にアルゼンチンの形に依つている。(tomarás, comerás, dirás.) エクアドル市に於ては半ば教養的な階級は vos と共に、二人稱單數動詞を使う傾向がある (vos eres, vos sabes, etc)。正確な單數形と共に使われる tù は時々時々 vos と共に混り、其が廣く擴がつているので、アルゼンテインやチリーに於けるやうに確定的な一般的な傾向を見出すことは困難である。

(vi) コロンビヤ

tú と衝突しつゝ存在している通俗のコロンビヤの話し言葉に依て用いられている voseo の一般的な特徴は、アルゼンテイン形と用じである。(vos tomás, tenés, vivís; tomastes 又は tomates 又は tomaste, etc.; tomá, tené, viví, tomabas, tenías, etc.) 然しアルゼンチン用法と反對に未來は一般に—és (verés) に終つている。尤も Henriquez Ureña が其の著 "Observaciones sobre el español en America" で云つているように絶對的なものではないけれども。haber の現在は一般に has であつて habés は稀である。南部コロンビヤに於ては然しながら voseo 形はエクアドルに於て用いられた形に似ている。コロンビヤの大西洋岸に於ては tù が一般にて、vos は稀である。

(vii) パナマ

首府及びコロンに於ては tú は用いられ、vos は國の奥地特に隣接したコロンビヤの奥地に於て聞かれる。

(viii) コスタ、リカ

voseo は中米のすべての五つの共和國に於て普通である。然し其の形式は、アルゼンチンの形式もあれば、チリーの形式もあり、非常に混亂している。そして時々 tú と vos とが混り合い、動詞形は單數であつたり、複數で

あつたりする。コスタ、リカに於ては voseo は非常に一般的であるからして、voseo は学校に於てさえも聞かれ、tú の用法は学問をてらうものとして考えられている。ニカラガ、オンヅウラス、エル、サルバドール、グアテマラに於ても同程度に用いられている。

(ix) メ キ シ コ

メキシコは元來 tú を用うる國である。voseo はテウアンテペク地峡とグアテマラの間の地域である東南に於ける比較的に限られたる地域に於てのみ、用いられる。メキシコのこの地方はグアテマラと言語的に類似點を持つている。voseo の地域はチアパス及びタバスコ洲の大部分を含んでいる。

(x) アンテイル列島

プエルト、リコとサント、ドミンゴに於ては tú のみが用いられる。クーバに於ては voseo は東部に於ける極く限られた部分にだけ知られている。取りわけ、メキシコやペルーに於けるが如く、vos の用法より寧ろ tú の規則正しい用法は、其の地の植民地的教養を反映している。そしてこの教養は、言語に於ける大衆的風潮に押し流されていくのを制することに役立つた。其の上に、キューバとプエルト、リコは南米各國が其の獨立を爲しとげて後、約百年間、スペインの植民地であつたからである。從て vos は東部キユバーの奥地、主にキヤマグウエイ、バヤモ、マンサニリヨに於てのみ、現はれた。此處では他の土地のように代名詞 te と tuyo と共にでなくて、正しい形の os と vuestro を以て用いられている。このことは高程の教養的及び社会的環境を反映している。

こゝに結論として云えることは、文法家や、用語の潔癖家の痛烈な非難にもかゝわらず、言語という纖維に深く織り込まれ、深く大衆の中に根をはつた voseo の用法は容易に根絶することの出來ない力を持つていることは否定出來ぬことであり、又 Castilian Sp. にて味はわれぬ一種の味いがあるとも云えば、云えぬこともなからう。

参　考　書

Ameriean College Dictionary, Rondom Houce.

The Uuiversity of Chicago Spanish Dictionary, Chicago.

Appleton's New Spanish Dictionary, New York.

Pequeño Larousse Ilustrado, Paris

N. Cowles: Lexical Characteristics of American Spanish observed in Regional Literary Works. HISAPANIA, Vol. XXXVII. No.1.

*C. Kany: American Spanish Syntax. Chicago.